



皆さま、こんにちは。私は自治医科大学の第一回の卒業生であります。卒業後、出身地の鳥取県で地域医療に従事した後、母校に帰り、現在は地域医療の教育や研究に従事しています。卒業生を支援する役割も仰せつかっており、卒業生一人一人を見詰め、全国へ向けて声援を送っています。現地へも赴いています。

信頼の「きずな」

さて、全国各地で医療活動をつづつたりレーエッセー「Dr.ジチ」は、今回で最終回となりました。「Dr.ジチ」は、この二年間に全国四十七の都道府県を二巡しました。毎週、土曜日の掲載が待ち遠しく、わくわくしながら読ませていただきました。いろいろな方から、「謳ん

かじい
梶井
えいじ
英治

自治医大地域医療学センター
地域医療学部門教授



約3000人の卒業生が全国各地で地域医療に携わっている自治医大

でいますよ。皆さん頑張っていますね」と声を掛けられては、胸が熱くなりました。毎回、紙面を通してさまざま

なドラマが伝わってきました。そこには、地域の住民と卒業生との間に結ばれた信頼のきずなと、それにまつわる名言が織り込まれていました。献身と感謝、そして人と人との温かみや思い

た。原点を見て取ることができました。当時、小さな病院はせました。当時、小さな病院であった国民健康保険(国保)日南病院は、医師不足、経営困難の渦の中にありました。その中で、日南病院を守ろうと立ちあがった病院の職員の活動が、行政と住民を振り動かし、町挙げの一一大運動となりました。

私が赴任して間もなくのことでした。この運動は実を結び、素晴らしい地域の病院となりました。その活動を通して、地域医療は「皆の医療、私たちの医療」であり、「皆で守り育てるもの。その主体は、住民である」ということをしっかりと学びました。日南町は私の医師としてのふるさとであり、原点でもあります。

日南町での取り組みは「Dr.ジチ」に登場した全国の地域の取り組みとまさに相通するものがあります。現在、約三千人の自治医大卒業生が日本全国で

やりが光を放ち、まさに医療の原点を見て取ることができます。皆、頑張っているなどの思いに誘われながら、二十八年前、

私は最初の赴任地となつた鳥取県の日南町へとたびたび思いをはせました。当時、小さな病院日、それを乗り越え光り輝いて

医療崩壊がささやかれる今思います。課題山積のわが国がこれらの地域の中にはぐくま

れています。そこには、医療の本質である人と人との思いやりにあふれた心の交流と、それに裏付けられた医療が存在しています。そして、医療を通した暮らしやすい町づくりが進み、住民の充実感

が、全国の津々浦々で展開されているのです。

住民が主体の地域医療を

町づくりの土台

医療崩壊がささやかれる今思います。課題山積のわが国がこれらの地域の中にはぐくま

れています。そこには、医療の本質である人と人との思いやりにあふれた心の交流と、それに裏付けられた医療が存在しています。そして、医療を通した暮らしやすい町づくりが進み、住民の充実感

が、全国の津々浦々で展開されています。